

物件目録 6－1（へ号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６８」とする容器に使用されている蓋体

（２）へ号蓋体の構成

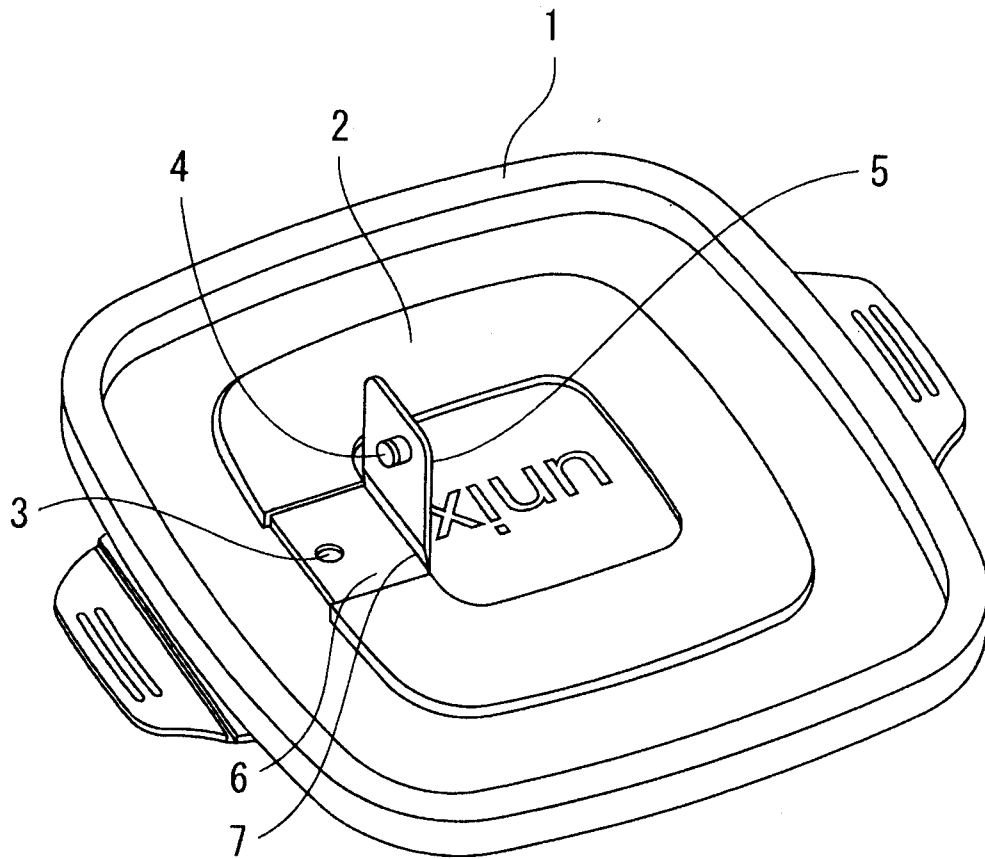
- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略四角形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）へ号蓋体の寸法

縦約１４４mm、横約１７１mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略正方形である。

（４）図面の説明

- ・図１はへ号蓋体の斜視図である。
- ・図２はへ号蓋体の平面図である。
- ・図３はへ号蓋体の断面図である。
- ・図４はへ号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図５はへ号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。



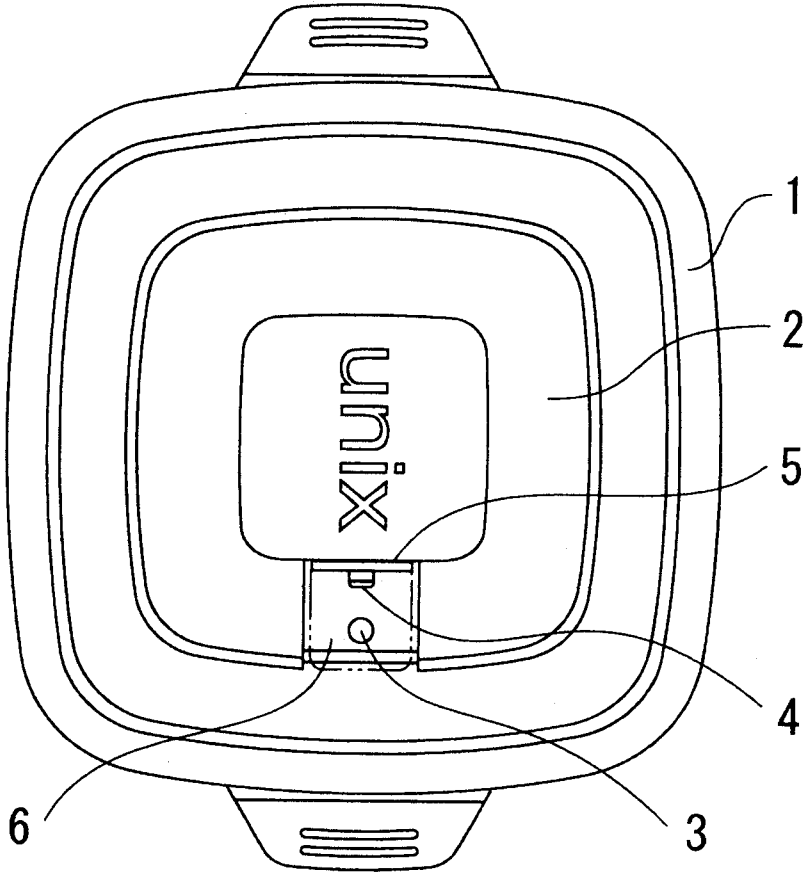


図3

へ号 蓋体

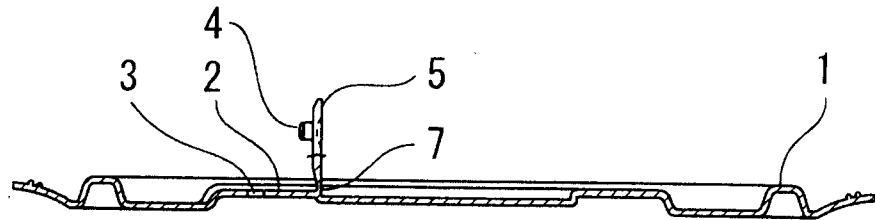
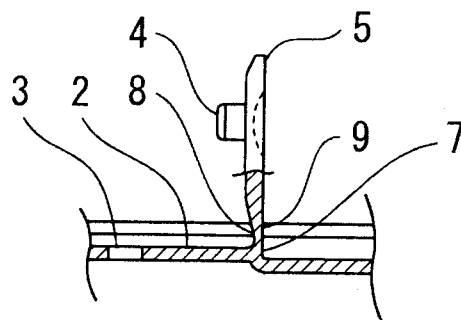
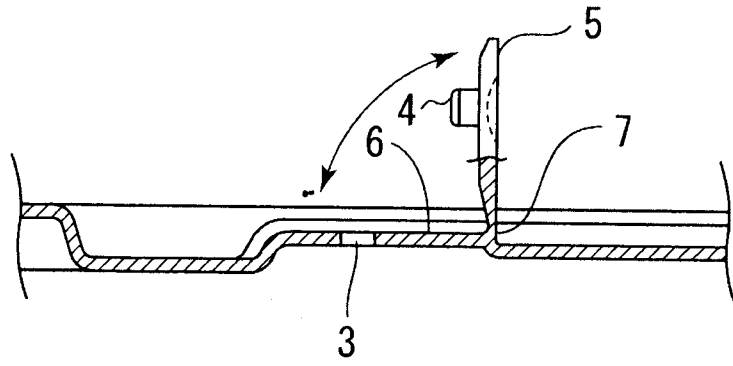


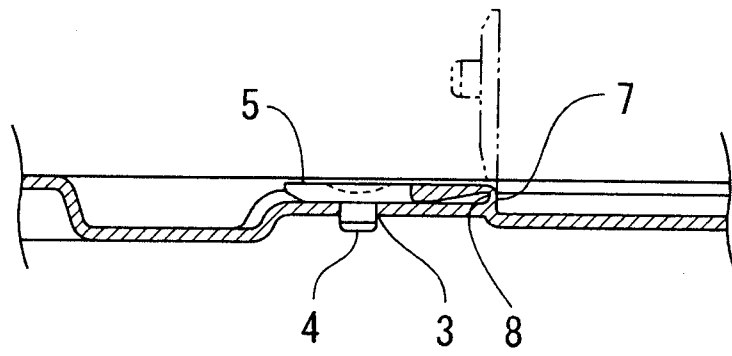
図4

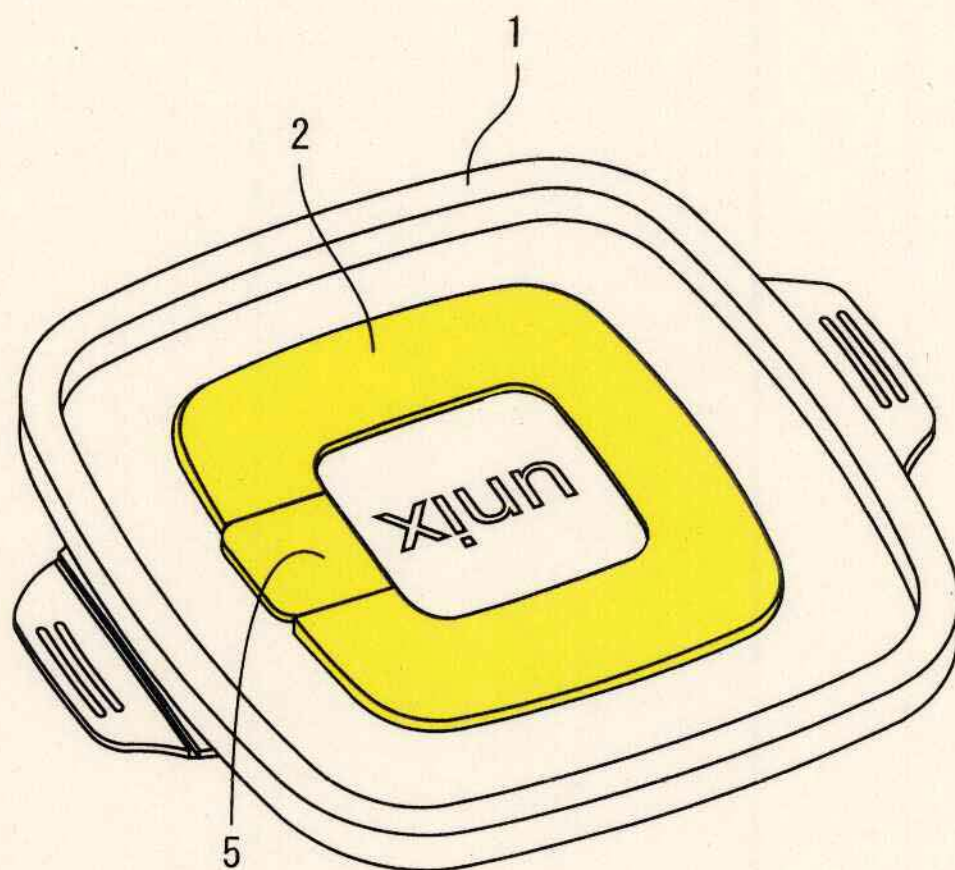


(a)



(b)





物件目録 6－2（ヘ号容器）

（１）被告製品に係る品番を「４２６８」とする容器

（２）ヘ号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部（２０）と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略四角形の蓋体（１０）からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略四角形環状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 容器

（３）ヘ号容器の寸法・容量

蓋体は、縦約１４４mm、横約１７１mm（持ち手部分の長さを含む）の平面視略正方形である。容量は９６０mlである。

（４）図面の説明

- ・図１はヘ号容器の斜視図である。
- ・図２はヘ号容器の平面図である。
- ・図３はヘ号容器の断面図である。
- ・図４はヘ号容器の蓋体の断面図である。
- ・図５はヘ号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図６はヘ号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

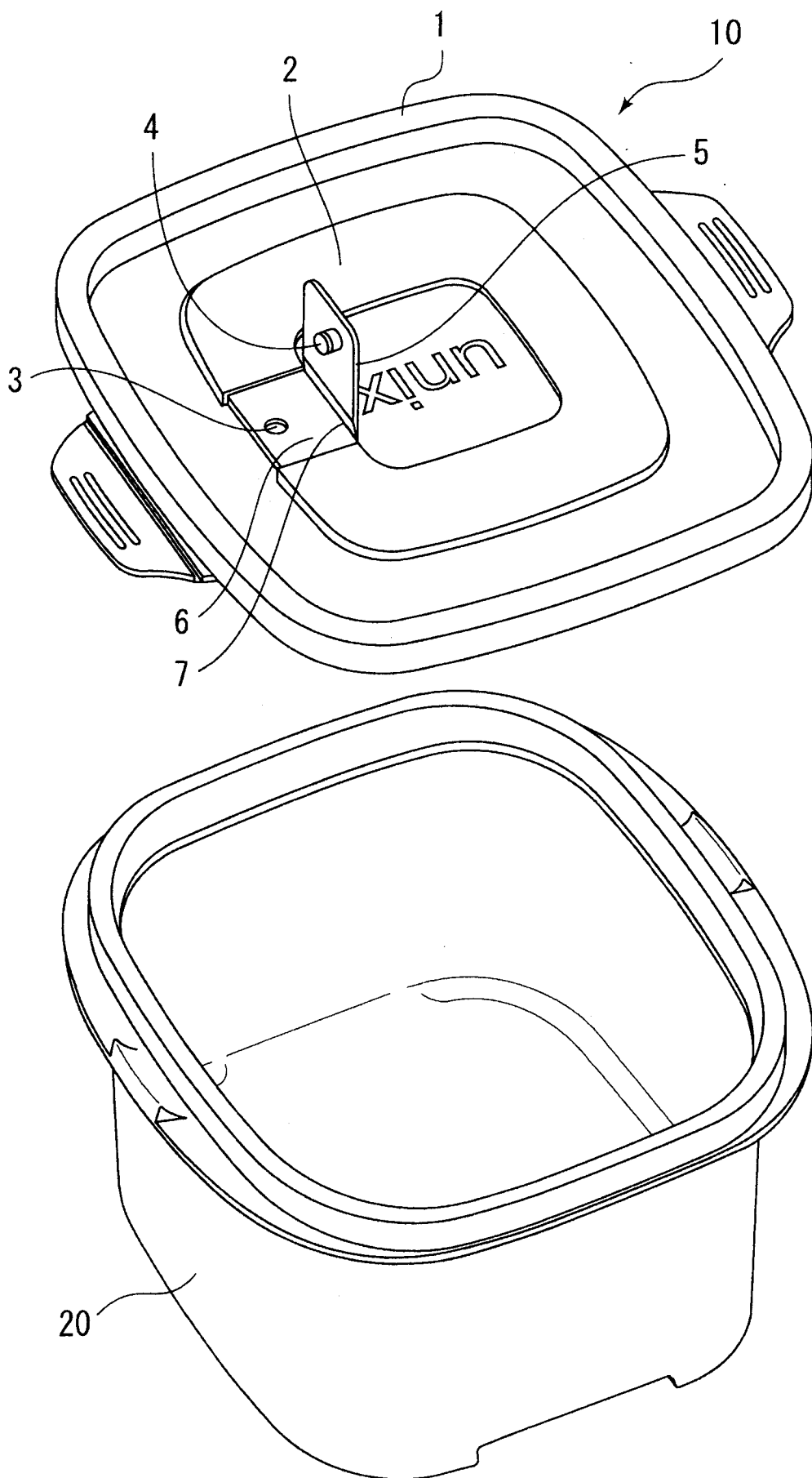


図2

へ号 容器

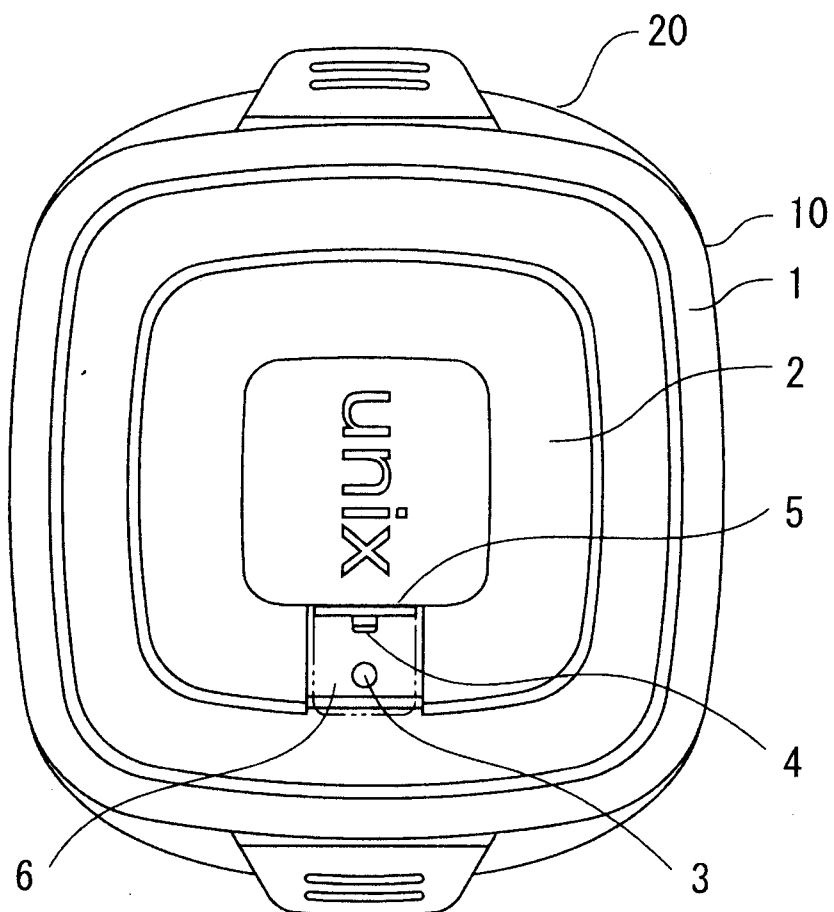


図3

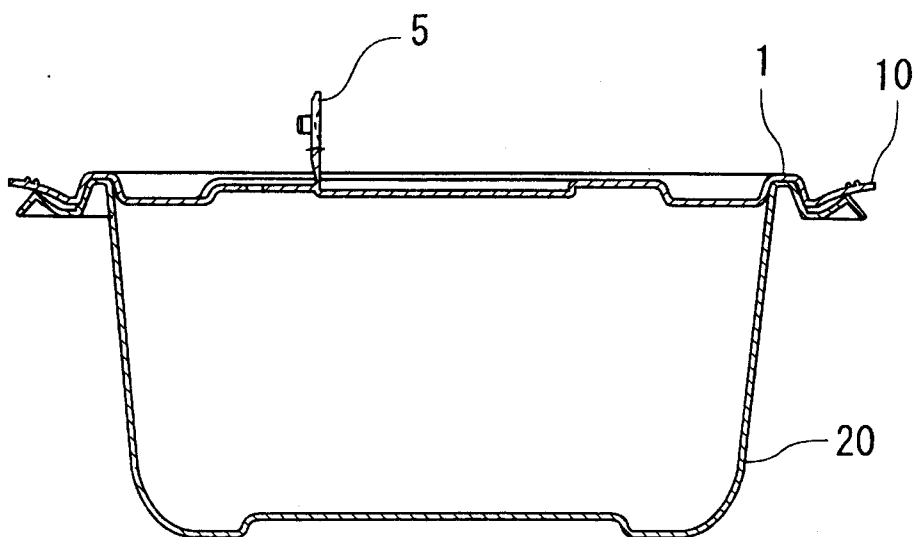


図4

へ号 容器

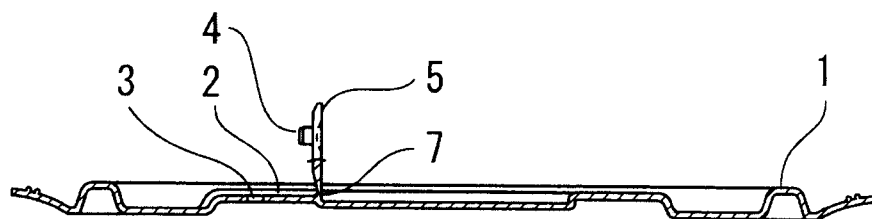
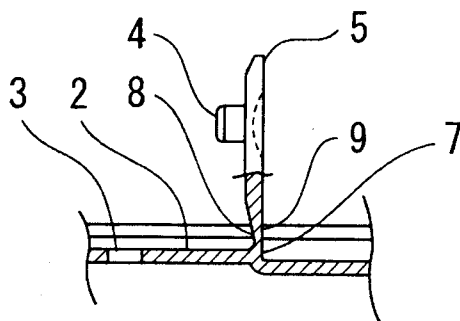
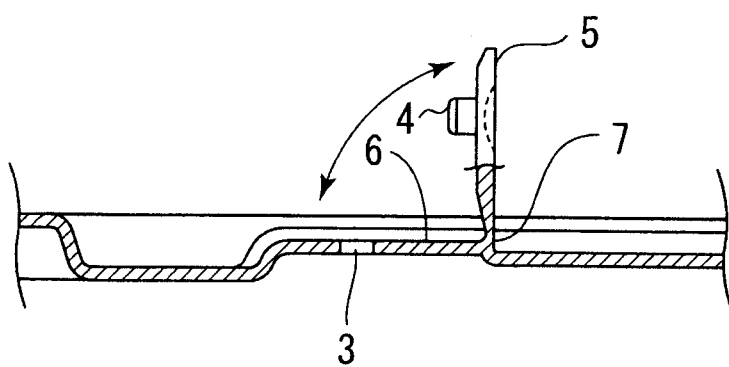


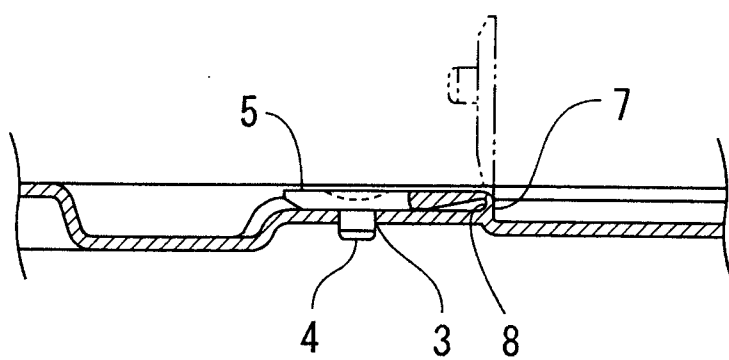
図5

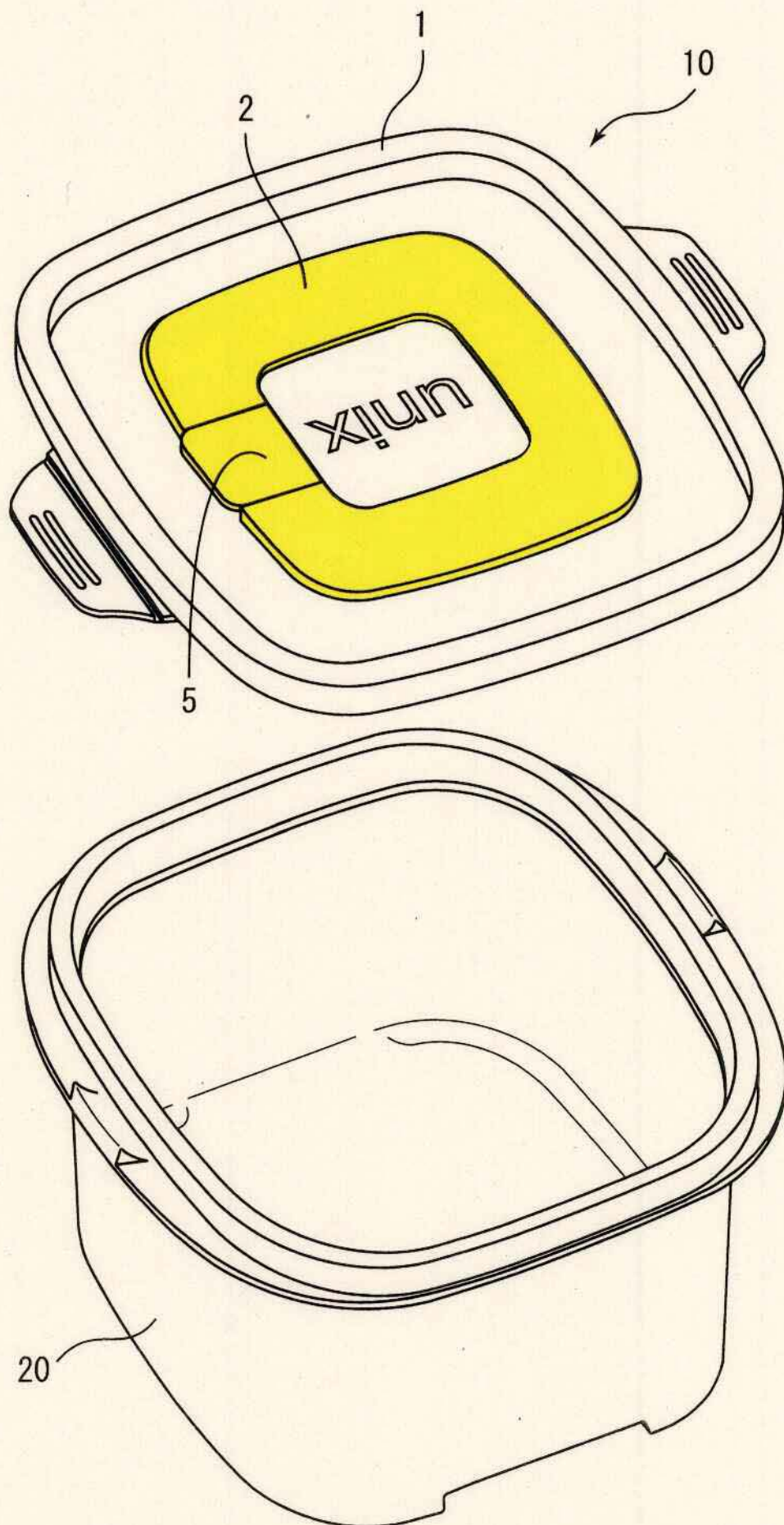


(a)



(b)





物件目録 7-1 (ト号蓋体)

(1) 被告製品に係る品番を「4260」とする容器に使用されている蓋体

(2) ト号蓋体の構成

- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略円形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部(1)は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略U字状に隆起する領域(2)を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴(3)と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部(4)を備えるフラップ部(5)と、当該フラップ部を収容する凹領域(6)が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部(7)を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝(8)が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面(9)は平坦な面をなす
- i. 蓋体

(3) ト号蓋体の寸法

直径約92mmである。

(4) 図面の説明

- ・図1はト号蓋体の斜視図である。
- ・図2はト号蓋体の平面図である。
- ・図3はト号蓋体の断面図である。
- ・図4はト号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図5はト号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

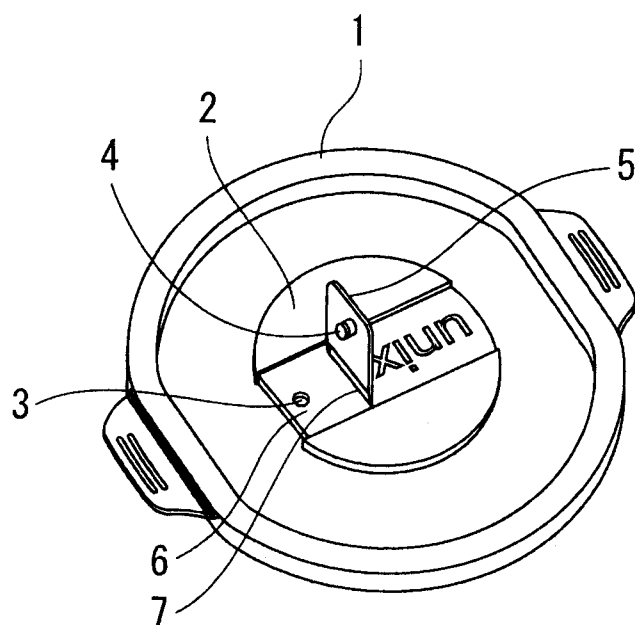


图2

卜号 盖体

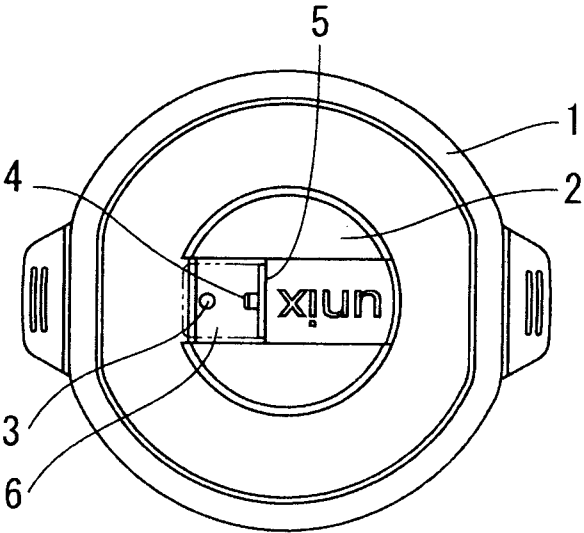


図3

ト号 蓋体

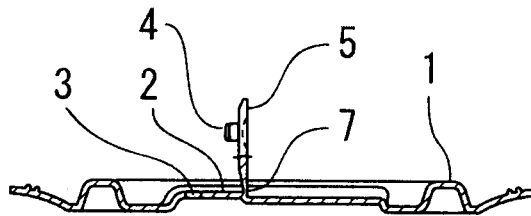
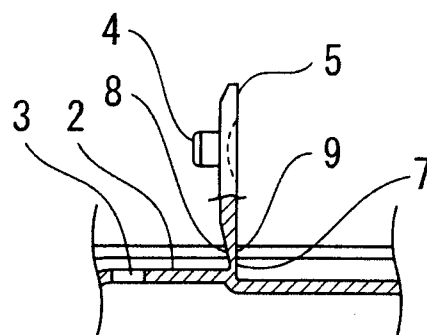
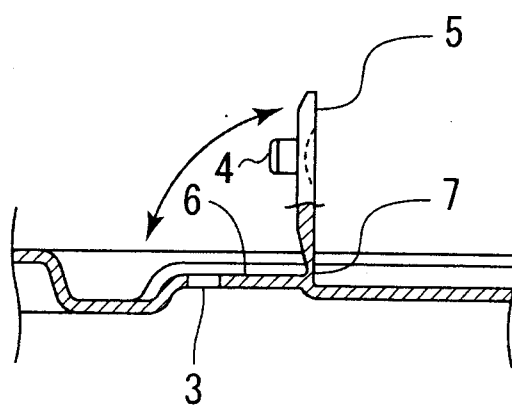


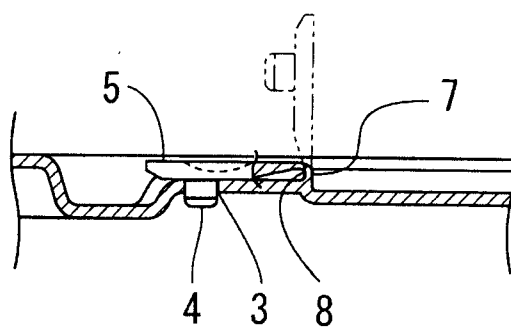
図4

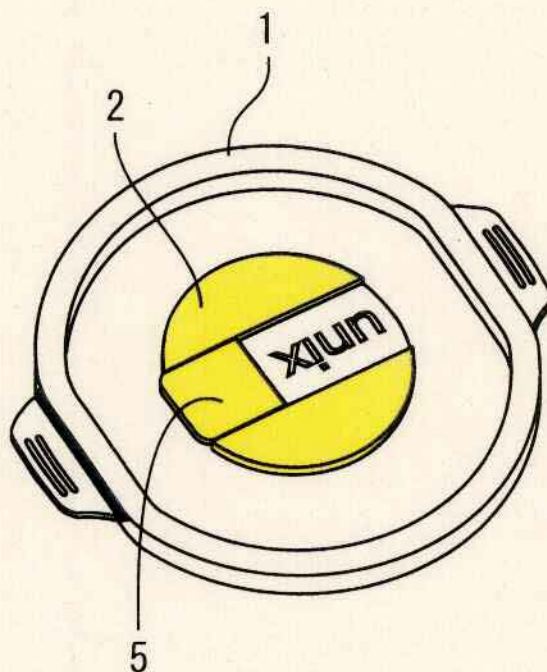


(a)



(b)





物件目録 7-2 (ト号容器)

(1) 被告製品に係る品番を「4 2 6 0」とする容器

(2) ト号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部(20)と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略円形の蓋体(10)からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部(1)は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略U字状に隆起する領域(2)を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴(3)と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部(4)を備えるフラップ部(5)と、当該フラップ部を収容する凹領域(6)が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部(7)を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝(8)が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面(9)は平坦な面をなす
- i. 容器

(3) ト号容器の寸法・容量

蓋体は直径約92mmである。容量は150mlである。

(4) 図面の説明

- ・図1はト号容器の斜視図である。
- ・図2はト号容器の平面図である。
- ・図3はト号容器の断面図である。
- ・図4はト号容器の蓋体の断面図である。
- ・図5はト号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図6はト号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

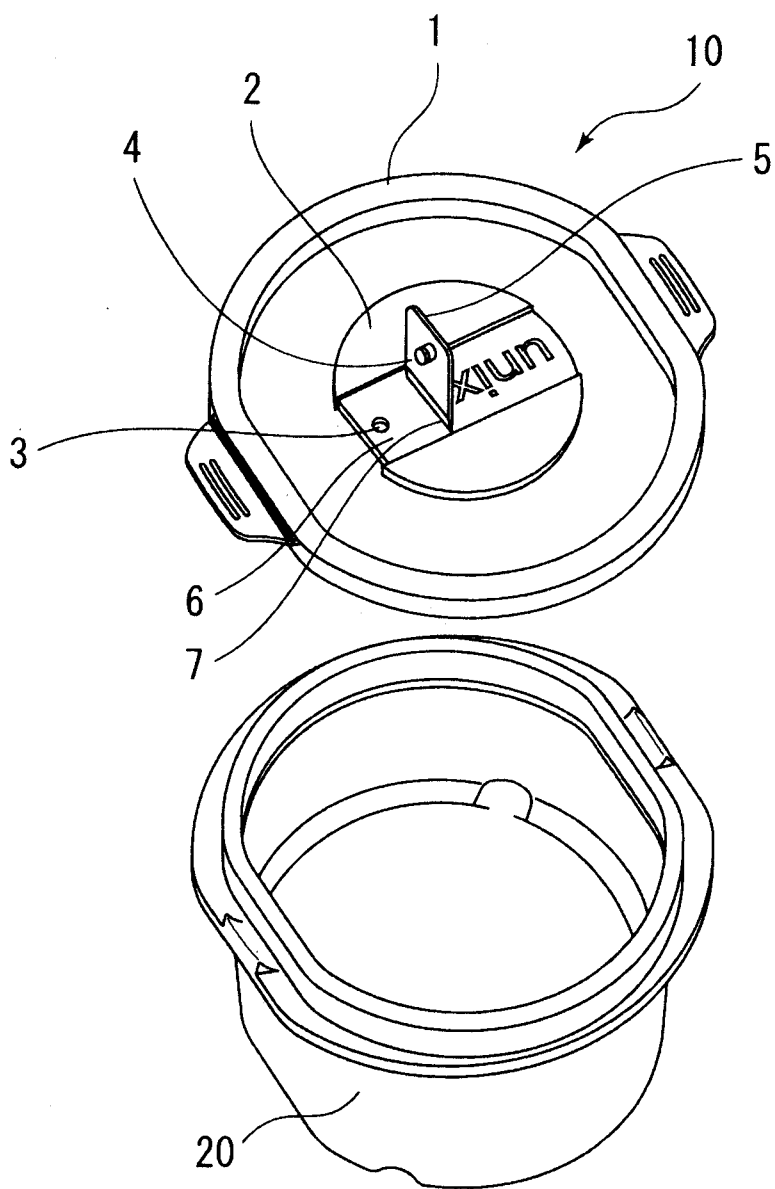


图2

卜号 容器

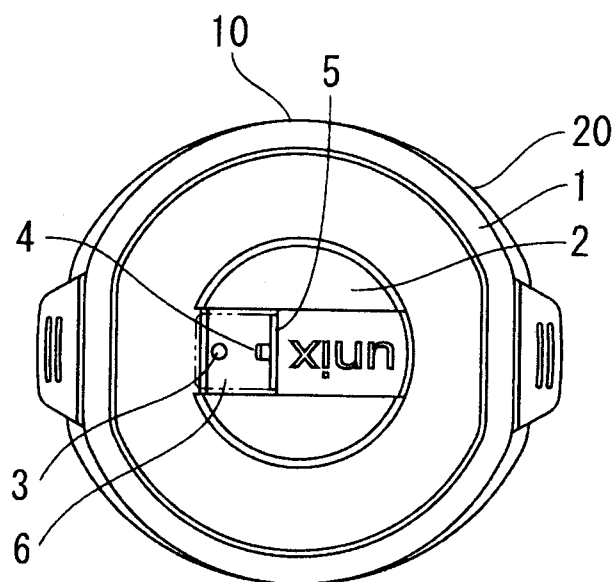
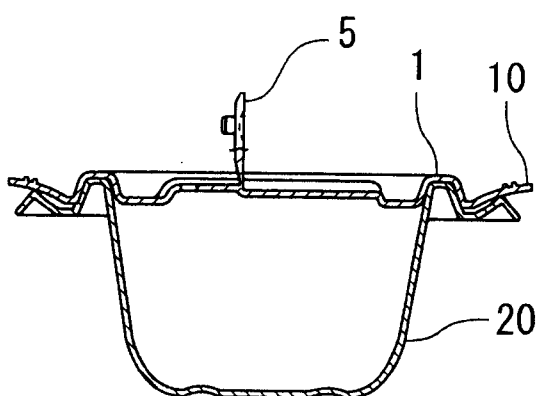


图3



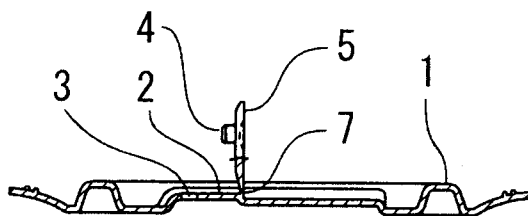
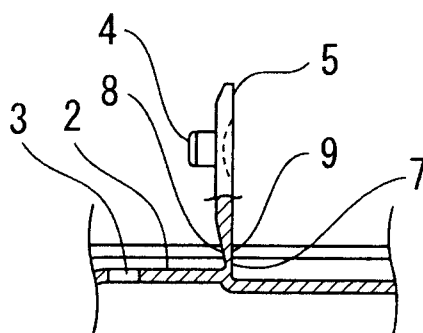
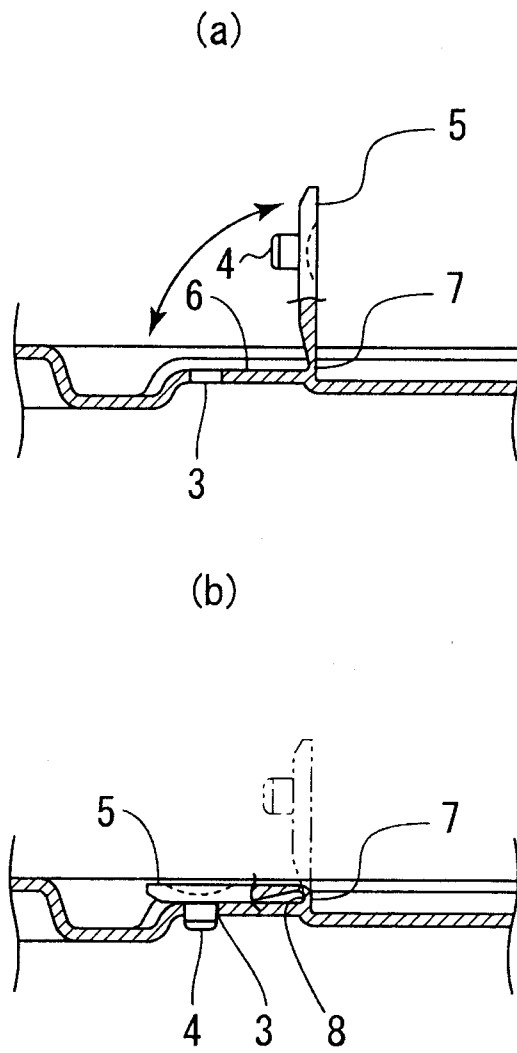
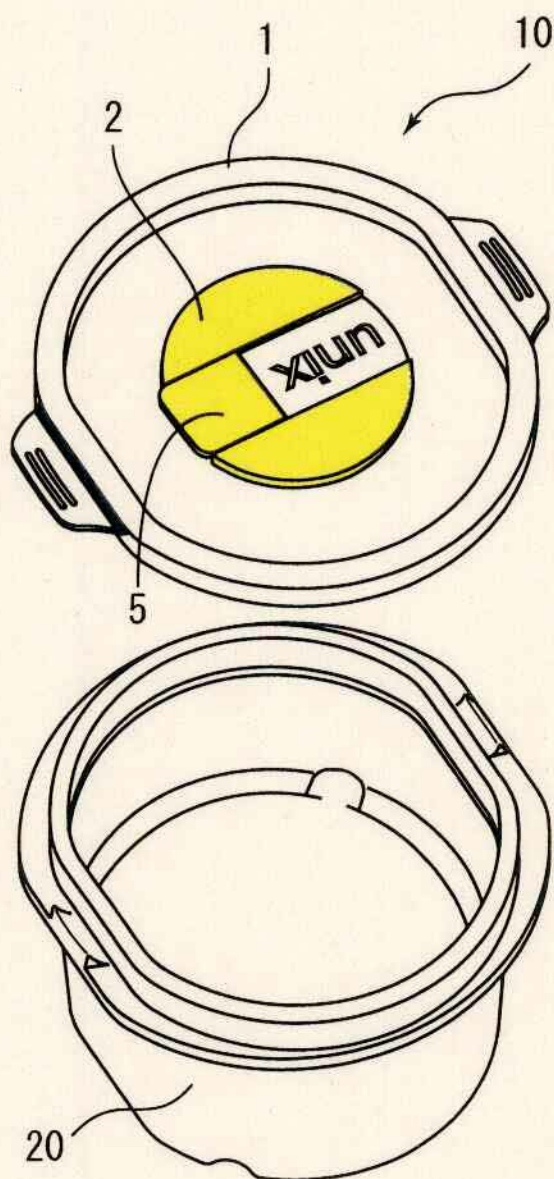


图5







物件目録 8－1（チ号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６１」とする容器に使用されている蓋体

（２）チ号蓋体の構成

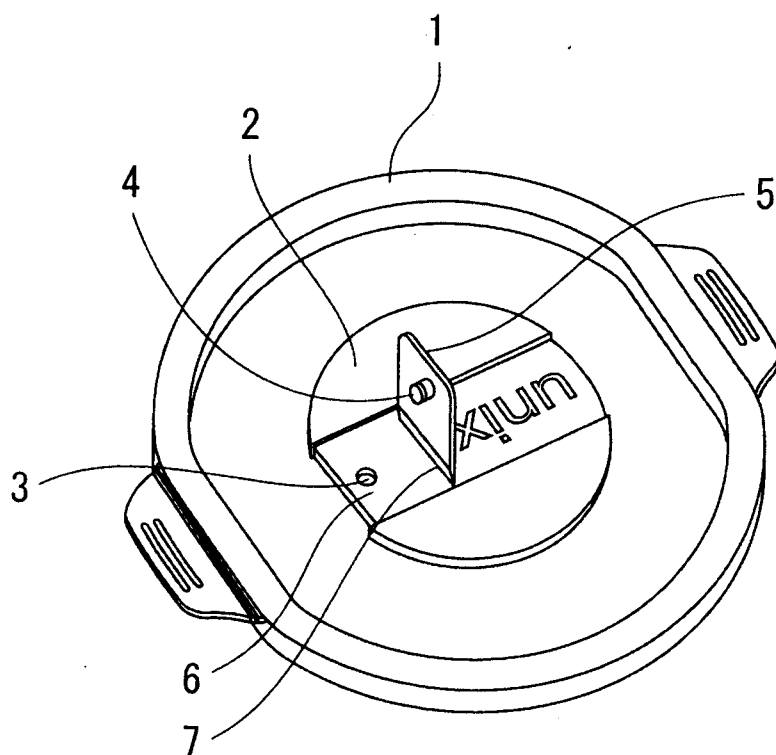
- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略円形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略Ｕ字状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）チ号蓋体の寸法

直径約 11.4 mmである。

（４）図面の説明

- ・ 図１はチ号蓋体の斜視図である。
- ・ 図２はチ号蓋体の平面図である。
- ・ 図３はチ号蓋体の断面図である。
- ・ 図４はチ号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図５はチ号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。



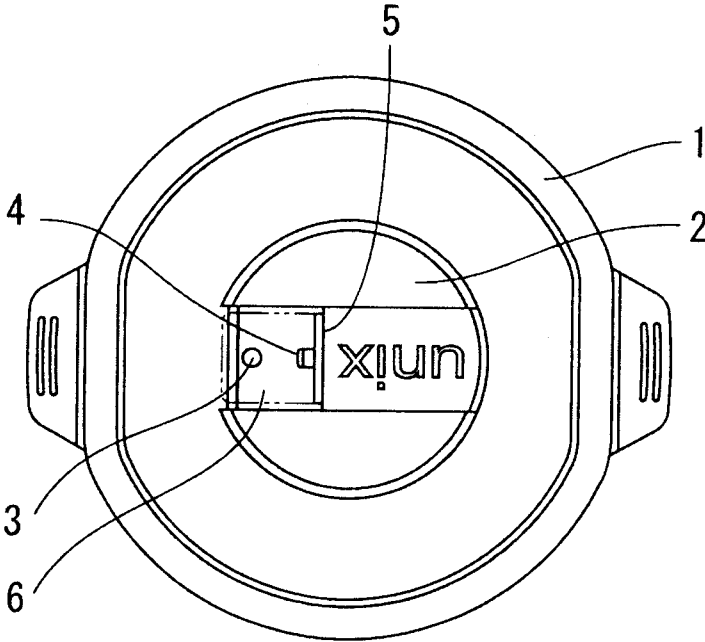


图3

子号 盖体

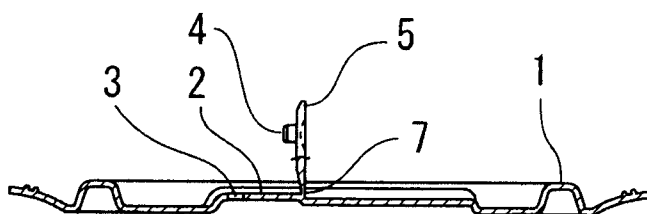
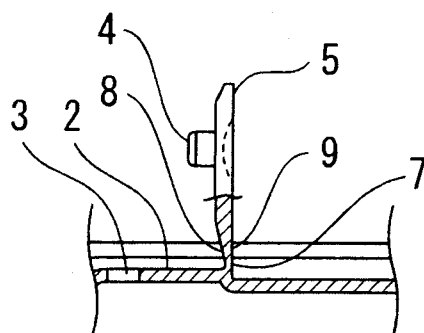
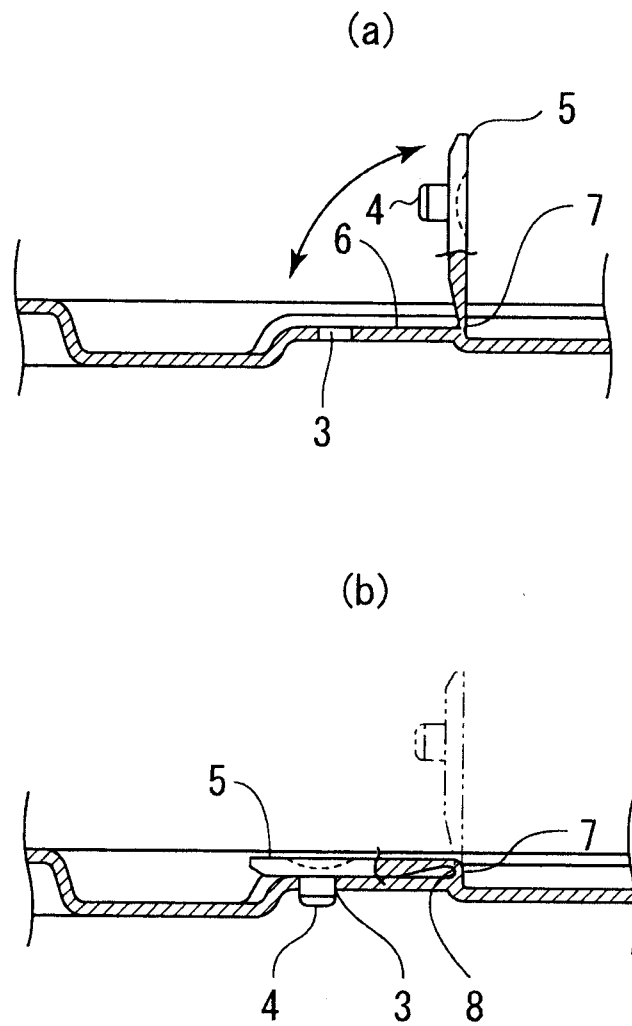
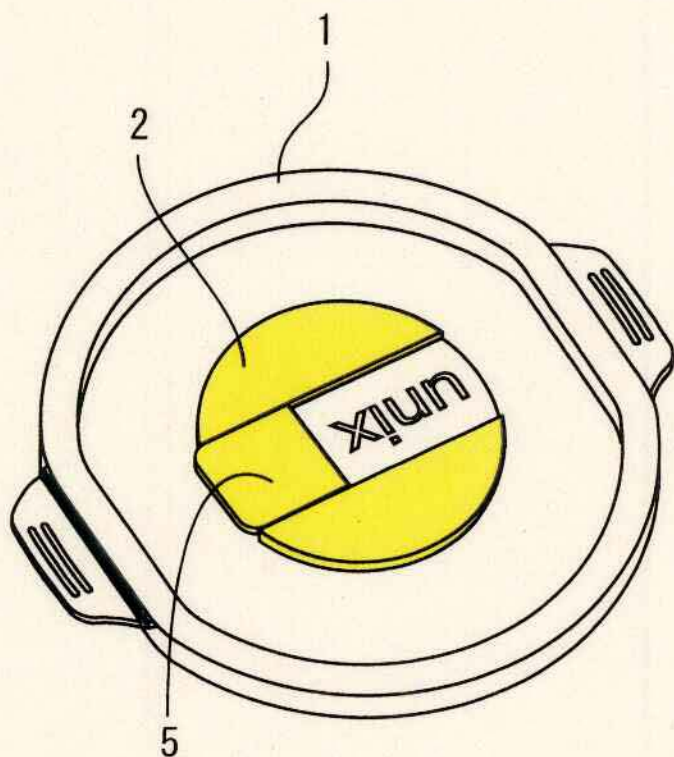


图4







物件目録 8－2（チ号容器）

（１）被告製品に係る品番を「４２６１」とする容器

（２）チ号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部（２０）と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略円形の蓋体（１０）からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略Ｕ字状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 容器

（３）チ号容器の寸法・容量

蓋体は直径約 114mm である。容量は 270ml である。

（４）図面の説明

- ・ 図 1 はチ号容器の斜視図である。
- ・ 図 2 はチ号容器の平面図である。
- ・ 図 3 はチ号容器の断面図である。
- ・ 図 4 はチ号容器の蓋体の断面図である。
- ・ 図 5 はチ号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 6 はチ号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图2

子号 容器

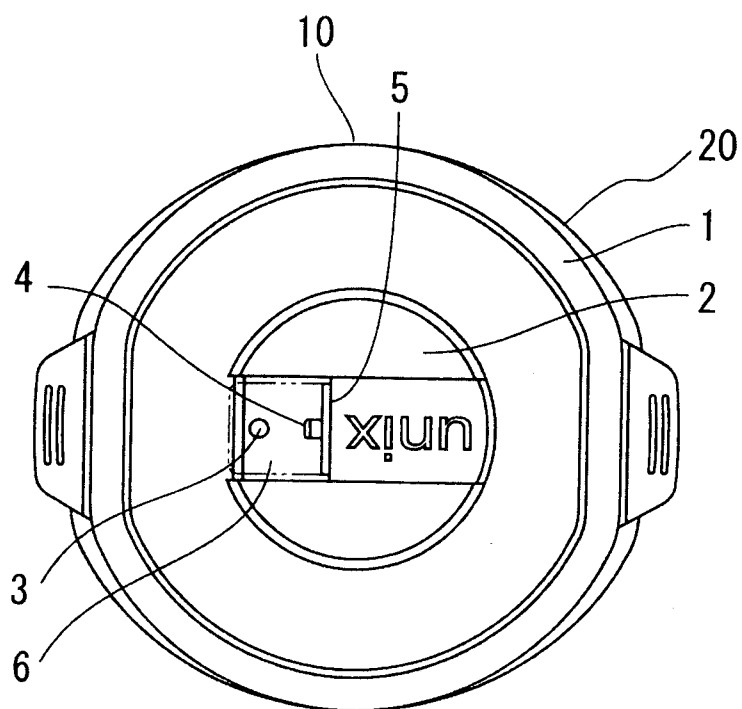


图3

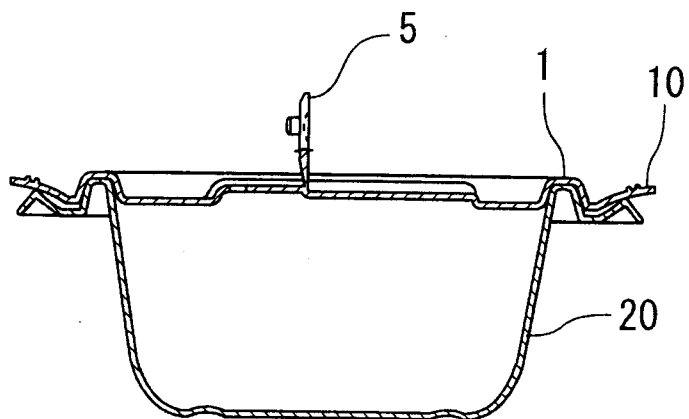


图4

子号 容器

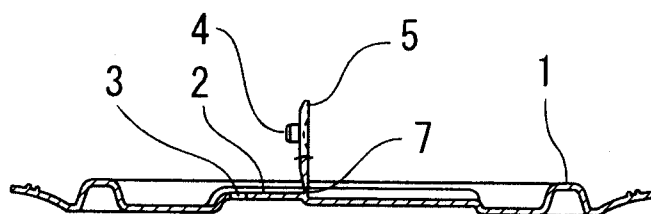
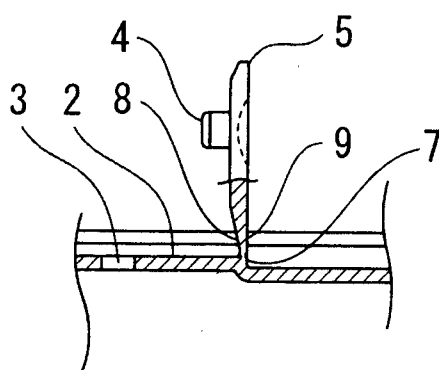
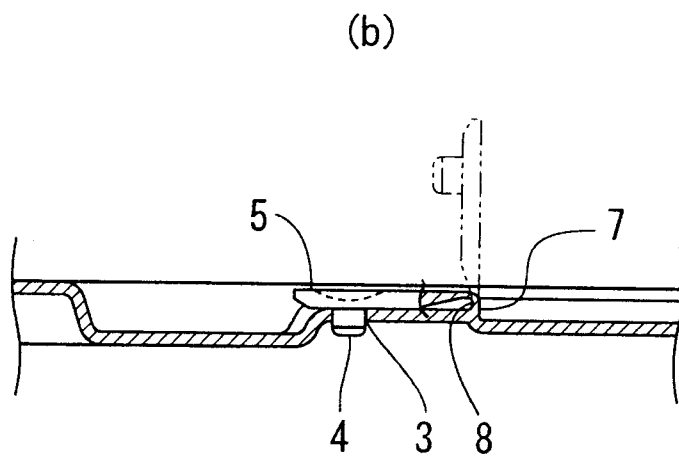
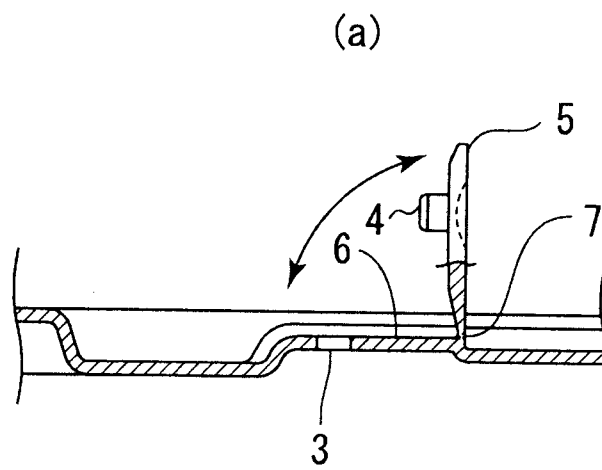
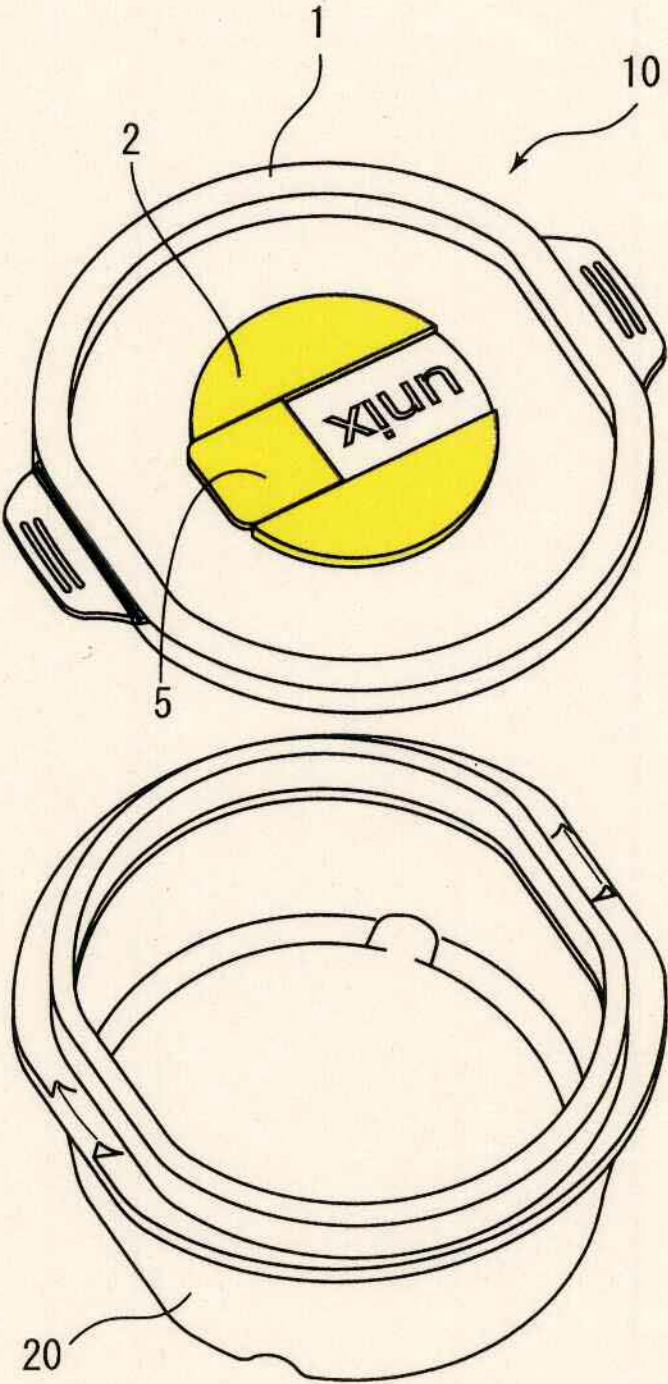


图5







物件目録 9－1（リ号蓋体）

（１）被告製品に係る品番を「４２６２」とする容器に使用されている蓋体

（２）リ号蓋体の構成

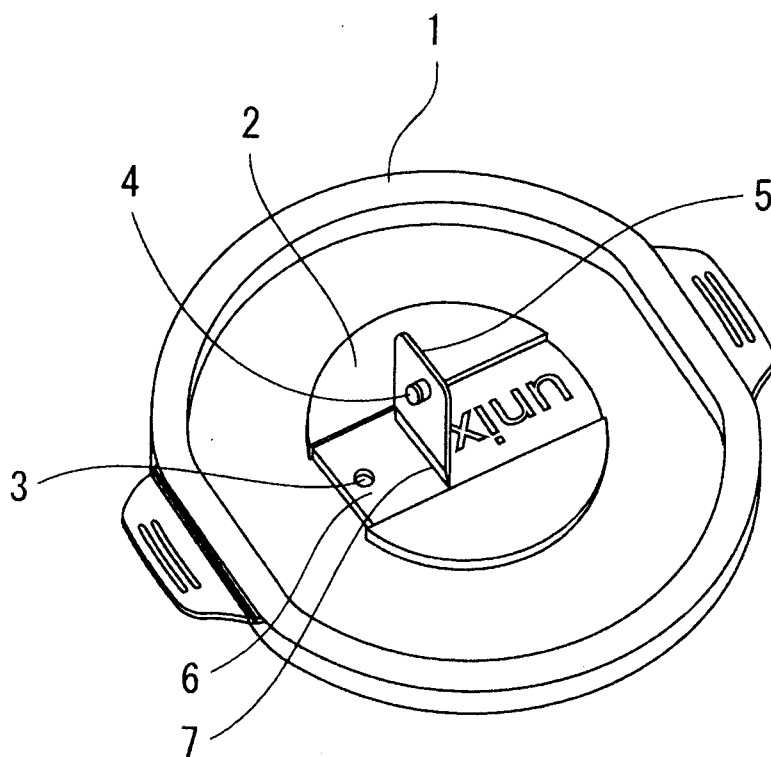
- a. 内部に食材を収容し、当該食材を加熱可能な容器における容器胴体部上方の開口部を閉塞する略円形の蓋体であって、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略Ｕ字状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 蓋体

（３）チ号蓋体の寸法

直径約 114 mmである。

（４）図面の説明

- ・図１はリ号蓋体の斜視図である。
- ・図２はリ号蓋体の平面図である。
- ・図３はリ号蓋体の断面図である。
- ・図４はリ号蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図５はリ号蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。



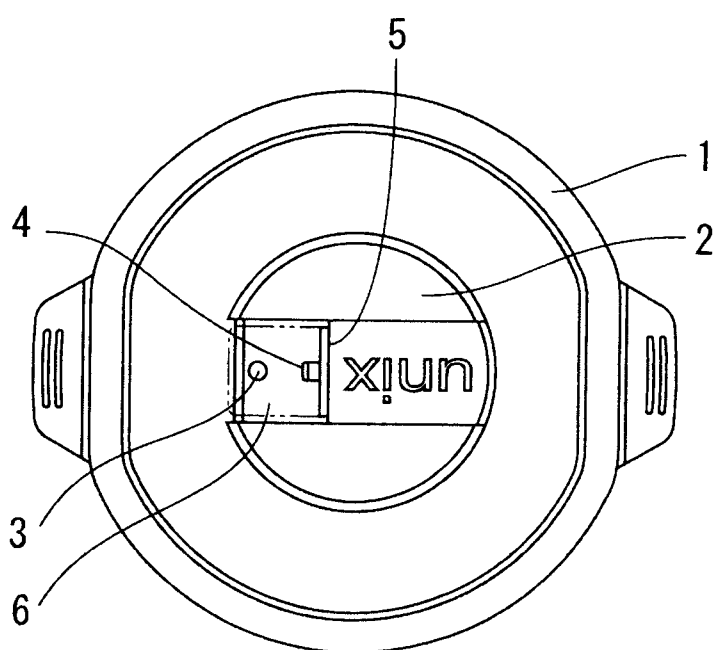


図3

リ号 蓋体

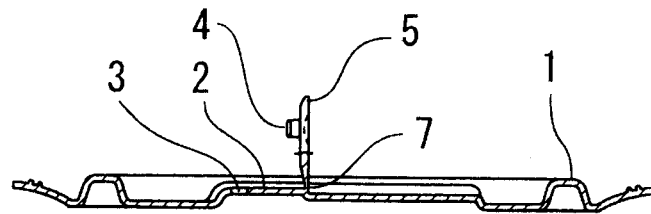
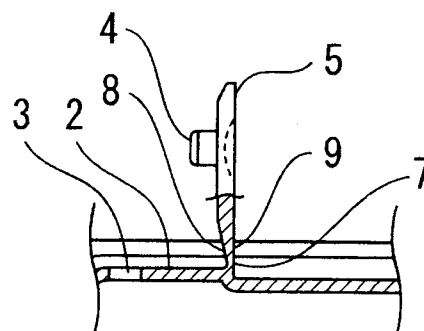
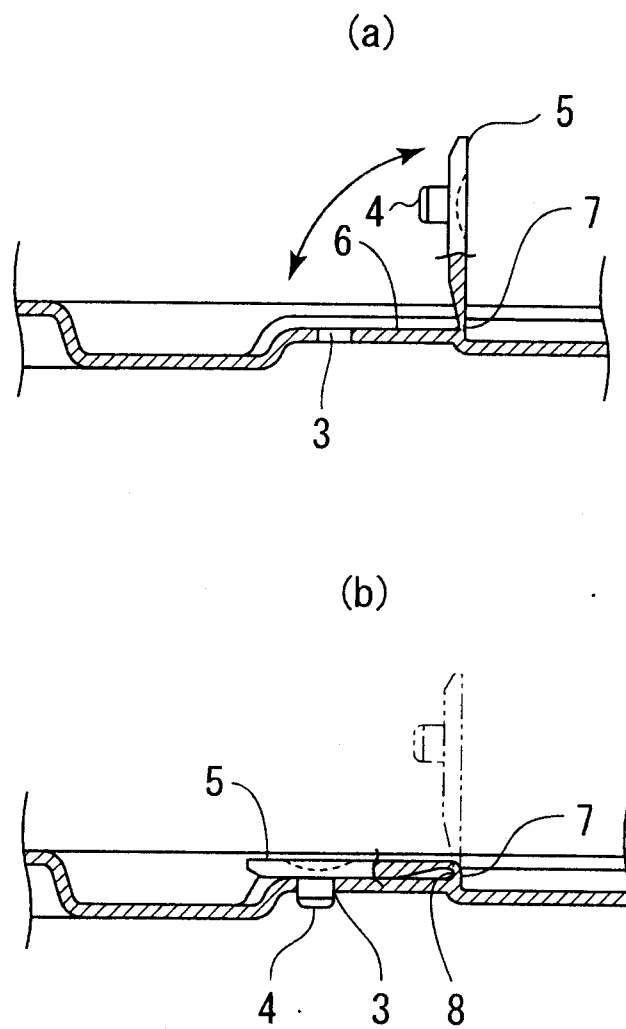
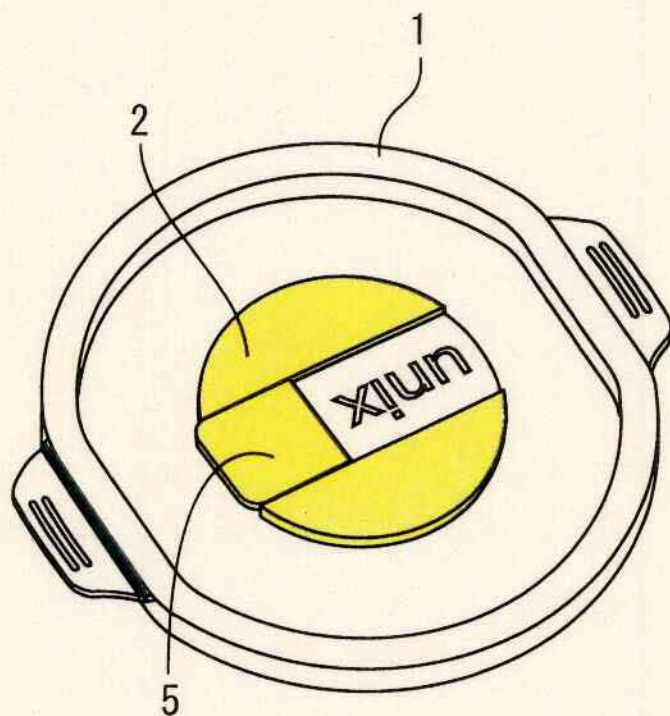


図4







物件目録 9－2（リ号容器）

（１）被告製品に係る品番を「４２６２」とする容器

（２）リ号容器の構成

- a. 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部（２０）と、当該容器胴体部の開口部を閉塞する略円形の蓋体（１０）からなる食材を加熱可能な容器であり、
- b. 蓋体の外周輪郭形状を定める周縁部（１）は、容器胴体部上方の開口部を形成する縁部と嵌合するように隆起しており、
- c. 周縁部により囲まれる領域内部において、周縁部から離間した位置に、平面視略Ｕ字状に隆起する領域（２）を備え、
- d. 前記隆起領域には、空気抜き穴（３）と、当該空気抜き穴を閉塞可能な突起部（４）を備えるフラップ部（５）と、当該フラップ部を収容する凹領域（６）が設けられており、
- e. フラップ部は、前記隆起領域の縁部に一体的に接続する基端部（７）を備えて、当該基端部を軸に回転するようになっており、
- f. 前記フラップ部が前記凹領域に収容される位置にあるときに、前記突起部が前記空気抜き穴を閉塞することになり、
- g. 前記周縁部の隆起は、前記隆起領域の隆起よりも高く、
- h. 前記フラップ部が凹領域に収容されている位置にあるときに、前記フラップ部の前記凹領域に相対する面には、凹溝（８）が形成され、前記フラップ部が前記凹領域に対して直立する位置にあるときには、前記凹溝が形成される面とは反対側の面（９）は平坦な面をなす
- i. 容器

（３）リ号容器の寸法・容量

蓋体は直径約１１４mmである。容量は３７０mlである。

（４）図面の説明

- ・図１はリ号容器の斜視図である。
- ・図２はリ号容器の平面図である。
- ・図３はリ号容器の断面図である。
- ・図４はリ号容器の蓋体の断面図である。
- ・図５はリ号容器の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・図６はリ号容器の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

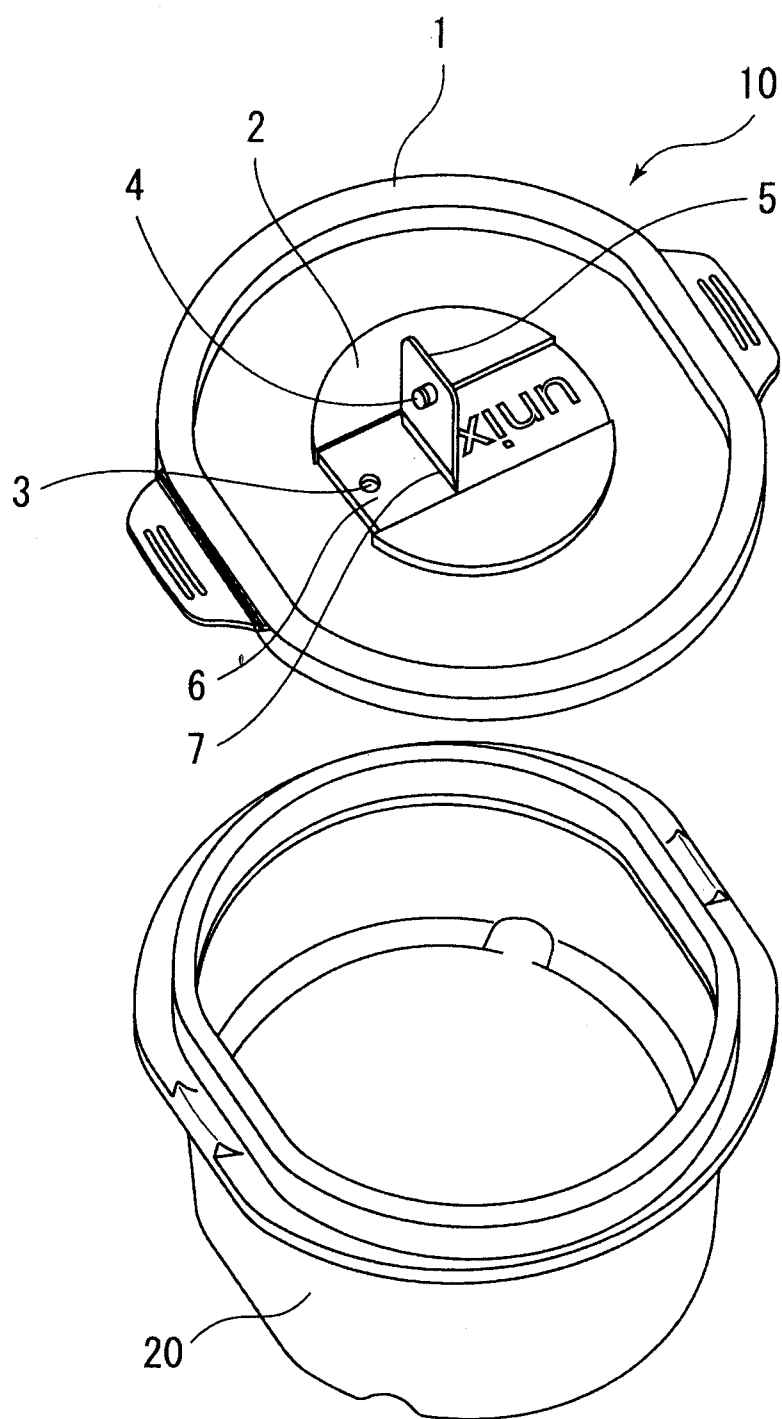


图2

リ号 容器

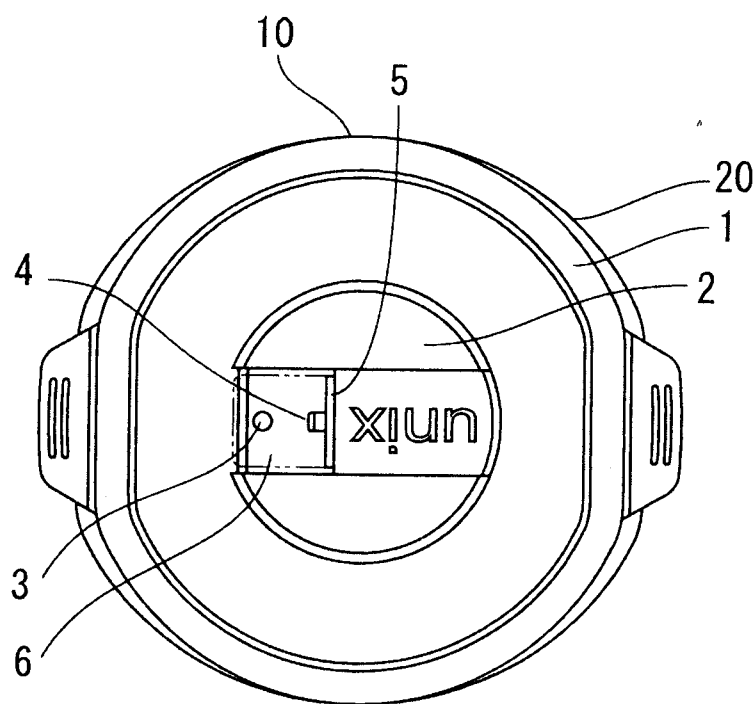
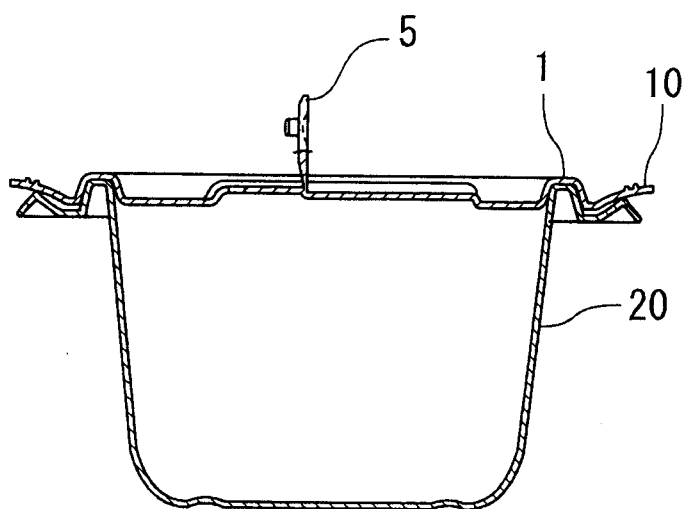


图3



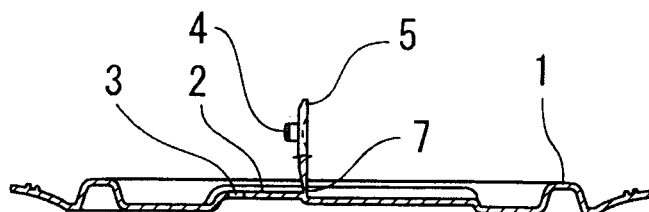


図5

